



言葉を通して世界の平和を

これぞ本学図書館の 主題別書誌データベース②

藤田真壽美

対外交渉史の中の漂流記

このデータベースは海外に漂流した
人物に関する書物を検索できます



(2017年2月21日作成・公開)

江戸時代頃から、日本人が諸外国に漂流した記録が残り始めました。

著名な漂流者としては、たとえば、ロシアに漂流した大黒屋光太夫（1751年・宝暦元年～1828年・文政11年）、アメリカに漂流したジョン万次郎=中浜万次郎（1827年・文政10年～1898年・明治31年）、仙太郎（1831年・天保2年～1874年・明治7年）、イギリスに漂流した音吉（生没年不明）、メキシコに漂流した阿波初太郎（生没年不明）や井上善助（生没年不明）がいます。

漂流記として有名な書物には、『北槎聞略』（桂川甫周著 1794年・寛政6年）、『漂異紀畧』（川田維鶴=川田小龍撰 1852年・嘉永5年）や『環海異聞』（大槻玄沢著 1807年・文化4年）等があります。

未知の文明に初めて接した人々の記録である漂流記に記された内容は、対外交渉史上重要なだけでなく、当時の人々にとっても、大変興味深いものであったと思われます。

ふじた ますみ（司書・管理運営課主事）